

# 年頭にあたって

小 平 町 長 関 次 雄



新年あけましておめでとうござい  
ます。

輝かしい新春を町民の皆様ととも  
に迎えることができましたことを、  
心からお喜び申し上げます。

また、日頃より町行政の推進にあ  
たり、深いご理解とご協力を頂いて  
おりますことに、敬意と感謝を申し  
上げます。

昨年は、2020年のオリンピック  
ク・パラリンピックの東京開催決定  
といった明るい話題から本格的な経  
済再生の期待が高まる中、道内経済  
においても、アベノミクスによる公  
共投資の増加を背景に建設業を中心  
とした改善がみられ始めております。  
しかしながら、管内においては依  
然として厳しい状況の中、当町にお  
いても少子高齢化による人口の減少  
や、景気の低迷による閉塞感が続い  
ており、経済回復傾向の兆しさ見え  
えておりません。今後、すべての地  
域において、肌で実感できるような  
経済回復を願うものであります。

私も町政の舵取り役を担って3年  
の月日が経過いたしました。先人  
たちが様々な苦難を克服し築き上げ

てきた、このふるさと小平町を一層  
豊かにし、次の世代に引き継いでい  
くことが大きな使命であることを、  
ひと時も忘れたことはありません。

町民の声を聞くことにより、同じ  
目線で考えていくことを町政運営の  
基本とし、住民が安心して暮らせる  
町づくりを目指してまいりました。  
本年も、その基本姿勢を崩すことな  
く、「目くばり、気くばり、思いや  
り」をモットーに舵取りを進めてま  
いります。

まもなく始まる新年度の予算編成  
においては、私の町政運営の基本理  
念であります「町づくりの主役は町  
民であり、町民の目線に立って自ら  
出向き、自らが見て聞く、現場主義」  
を徹底してまいります。

平成26年においては、変化する町  
の交通事情から、地域公共交通体系  
の見直しにより、てんてつバス路線  
の運行状況を最大限考慮した「デマ  
ンドバス(予約制の乗合バス)」を導  
入し、利用者の利便性に配慮した  
サービス水準の維持・向上を図って  
まいります。

また、昨年より一部着手しており  
ます、「ゆったりかん・番屋施設周辺

の環境整備」の本格化に加え、「マイ  
田ウン プロジェクト」と称し、将  
来に希望が持てる農業確立のため、  
農業後継者の育成はもとより、農業  
資源を活用し、漁業・商工業の連携  
を図りながら6次産業化の取り組み  
も行うことで、小平町の観光資源と  
連動したこれまでと違った視点で  
「新たな小平町の魅力づくり」を積  
極的に進めてまいります。

町民の皆様には、何卒ご理解を頂  
き相変わりがませぬのご支援とご協力  
を賜り、私自身職員とともに一層の  
資質向上を目指して町政運営に務め  
てまいりますので、よろ  
しくお願い申し上げます。

本年も、平穏で明るく希望に満ち  
た年であるとともに、町民皆様のご  
健康とご多幸をお祈り申し上げます。  
新年のご挨拶といたします。